（別紙２）

審査の結果の要旨

氏名　李　莎梨

本論文は，1997 年の経済危機（IMF 危機）以降の韓国における大卒ホワイトカラーの退職・起業行動の特徴を，退職・起業を促進し，またそれに制約を加える社会経済的諸条件の考察と，大卒ホワイトカラー出身自営業者 35 名のインタビュー資料の分析を通じて論じたものである。まず，IMF 危機以前から労働市場の二重化が顕著で，かつホワイトカラー労働市場の流動性が決して低くはなかったことと，IMF 危機以降，高学歴中高年の自営業層への参入比率が高まり，学歴に応じた高所得化も進んだことから，韓国では大卒ホワイトカラー退職者の一部がブルーカラー自営業層に吸収されることなく自営業化を果たすことで，中高年層における失業率の抑制が可能になっていたことを示す。また，IMF 危機を前後する企業の人事管理制度の変革により退職の早期化が促進される一方で，人材形成の方式がマニュアル化と専門化の両面性を具えていたことから，営業・購買・生産・研究開発系に特化する者にとっては退職前の業務経験と取引先との関係を利用した同業種での起業が比較的容易となった反面，人事・総務系の場合，多くが異業種での起業を余儀なくされたことを示唆する。

以上の考察を踏まえ，起業事例について，まず内的動機を分析したうえで，さらにこれを「会社」経営と「店舗」経営の 2 類型に分けて，起業と経営の詳細を考察する。前者からはオーナー経営志向の強さと経営資源の調達における「強い紐帯」（家族・近親や名門高校同窓生の関係性）と「弱い紐帯」（退職前の同僚・知人や起業後の知人との関係性）の使い分けを見出し，経済的利益の追求のみならず，競争者でもある仲間から仲間として認められること，すなわちアッパー・ミドルとしてのステータスの相互認証にも重点が置かれていたことを示す。一方後者，特に飲食店経営の事例からは，飲食業に対する社会的評価の低さとその浮き沈みの激しさを背景として，高いステータスの維持を可能にする経営の難しさと強弱の紐帯の限定的活用を読み取る。

韓国企業の人事管理・人材形成に関する内部資料やホワイトカラー出身者に留まらない多様な起業事例など，稀少性の高い資料を幅広く集め，起業動機，社会的資源の活用，ならびに交換に関する諸社会理論を援用しつつ独自性の高い論を展開している点，なかでも大卒ホワイトカラー出身の自営業者に見られる巧みなソーシャル・キャピタルの使い分けとステータス志向を具体的な起業事例に基づき当事者の観点から明らかにしている点は，韓国自営業層の研究に新たな知見を加えるものといえる。他方で，統計資料の分析・解釈，起業動機や経営スタイルの類型設定，研究成果の理論的意義づけ等において課題とすべき点も少なくないが，本論文の積極的意義を否定するものではないことを確認し，全員一致で本論文が博士（文学）の学位を授与するにふさわしいと判断した。